

「ありがとう三日市幼稚園」記念式典

～67年間に感謝～

令和3年3月末をもって休園となる三日市幼稚園の「ありがとう三日市幼稚園」記念式典が3月20日に行われました。コロナ禍にあつて、参加人数は制限させていただきましたが、式典には島田智明河内長野市長をはじめ7名の御来賓の皆様にご臨席いただき、令和2年度卒園生や保護者、元保護者、元職員、地域の皆様、東中学校吹奏楽部の方々など約70人が出席し、67年の歴史を持つ本園への別れを惜しみました。

本園は「三日市地区にも幼稚園を！」と、地元の皆様の熱い思いが実り、昭和29年3月1日、南河内郡三日市村立幼稚園として誕生し、この地に幼児教育が始まりました。その後、同年4月1日より、河内長野市の市制施行とともに、河内長野市立三日市幼稚園と改称し、以来、67年間、4610名の卒園生が学び、103名の職員が赴任いたしました。

明日の河内長野市、明日の日本を創る子どもたちのために、地域、保護者、教職員が一丸となって三日市幼稚園を育てていただきました。園児たちは、いつの時代も、純粹無垢なその笑顔が教職員の力となり、保護者を楽しませ、幼稚園、そして地域に元気を与え続けてくれました。

園歌の歌詞にもあるように、上田の杜に位置する三日市幼稚園。はるか向こうには岩湧山がそびえています。園庭には冬も薄着でがむしゃらに遊び、春はイチゴやジャガイモがたくさん育っている畑で蝶を追いかける子どもたちの姿があり、夏はどろんこになって田植えの準備に汗を流し、収穫したサツマイモの蔓や烏帽子形公園で集めたドングリなどを使って芸術の秋を迎えます。そしてまた、冬が巡って、霜をいっぱい踏んで走り回り、子どもたちは一回り大きく成長していききました。

素晴らしい環境を保育に生かし、地域の皆様のご支援をいただき、家庭と幼稚園が一つになって、子どもたちの自立の基礎を培ってきました。昭和・平成・令和と時代は移り変わっていききましたが、「心身ともにたくましく、心豊かな子どもを育てる」という教育目標のもと、幼稚園の伝統はずっと引き継がれていきました。

いつの時代も、たくさんのお子たちの笑顔が溢れていました。子どもを思う優しい保護者がいて、素敵な先生がいました。そしてそれを温かく見守ってくださる地域の皆様がおられました。本園を卒園された卒園生、保護者の皆様、元先生、地域の方々には、休園ということで、何事にも代えがたい寂しさはあるとご推察いたします。しかし、この地で結ばれた人と人、人と地域の皆様の絆は永遠に引き継がれていくものと確信しております。

～67年間 本当におありがとうございました～

3月20日 「ありがとう三日市幼稚園」 記念式典

厳かな雰囲気の中、令和2年度卒園生、保護者、地域の方々、歴代の教師、そして東中学校吹奏楽部の皆様など、約70名の皆様の出席のもと記念式典が執り行われ、67年の歴史ある三日市幼稚園への別れを惜しましました。

「ありがとう三日市幼稚園」 記念式典

<式次第>

1. 開会のことば
2. 国歌斉唱
3. 河内長野市民歌斉唱
4. 園長式辞
5. 市長あいさつ
6. 来賓紹介
7. 保護者代表より
8. 思い出写真館
9. 令和2年度卒園児より
10. お礼のことば（実行委員長）
11. 園歌斉唱（2回）
※演奏：東中学校吹奏楽部
12. 閉会のことば

三日市幼稚園 園歌

1. うえだのもりの おかのうえ
とおくいわわき みわたして
ぼくもわたしも にこにこと
みんななかよく かよいます
みっかいち ようちえん
2. ひろいおそらを きょうもみて
つよくあかるく すこやかに
ぼくもわたしも にこにこと
みんなげんきに はげみます
みっかいち ようちえん

記念式典では、小澤園長が「当初は、たくさんの卒園生、元保護者の方々、地域の皆様をお招きし、盛大に実施できたらと計画しておりましたが、昨年来からのコロナ禍の中、実施についても危ぶまれる状況でしたが、関係者の皆様の御協力により参加人数は限定させていただきましたが、本日、開催できること、本当に感謝申し上げます。・・・本園を卒園された卒園生、保護者、元先生、地域の皆様には休園ということで、何事にも代えがたい寂しさはあるとご推察いたします。しかし、この地で結ばれた人と人、人と地域の皆様の絆はいつまでも引き継がれていくものと確信しております」と式辞を述べました。続いて、島田智明市長から「67年間という歴史と伝統の幕を一旦休園するにあたり、本日まで三日市幼稚園の発展のためにご尽力いただきました歴代園長、教職員、保護者、地域の皆様に、深く感謝を申し上げます。」とごあいさついただきました。

保護者代表として、令和2年度PTA会長の永田裕美様より、「・・・雨の中、演技をやり切った子ども達の姿に、いつのまにこんなにたくましく成長したんだと思うと喜びと感動でいっぱいでした。そこには常に「できる」「できない」ではなく、子どもの心に寄り添い励まし、自信を持たせてくださった先生方がいたからこそです。・・・こんな素晴らしい幼稚園が休園してしまうのは、残念で寂しくて仕方ありません。せめて、この場所がこれからも子どもたちの声が聞こえてくるような場所であり続けてほしいと願っています。三日市幼稚園、たくさん、たくさん、ありがとうございました。」と述べられました。

続いて、「思い出写真館」として、昭和29年の創立から本年度までの67年間の三日市幼稚園の歴史と、あの日あの時の子どもたちの表情を約300枚のスライドで振り返りました。「降園のとき、子どもたちが先生に付き添われて、ボンネットバスに乗りこむ帰る様子」や「田んぼに入って泥だらけになった笑顔いっぱいの表情」など、懐かしい幼稚園の風景や子どもたちのはじけるような笑顔、数々の行事の中で保護者の皆さんが頑張っている場面など、昭和、平成、令和と引き継がれてきた幼稚園の素晴らしい伝統と子どもたちとの笑顔を改めて思い起こすことができました。

その後、卒園生4610名の代表として、令和2年度卒園生の6名から元気一杯のメッセージがありました。自分達でつくった創作劇では、タイムマシンに乗って70歳になる時代に到着し、三日市幼稚園での楽しかった思い出や素晴らしさをみんなで振り返るなど、式典に参加された皆さんからも涙と笑いで絶賛されました。また、今まで学んできた手話を使った手話歌で、kinki kidsの「道は手ずから夢の花」を披露しました。約15分間のメッセージでしたが、立派に大役を果たしてくれた6名でした。ありがとう。

実行委員長の角田前園長先生からお礼のことばとして「コロナ禍であり、少人数の式典ではありますが、素晴らしい式典となりました。最後の入園児である6名の園児のメッセージは、三日市幼稚園の67年間の歴史と伝統をあらわす素晴らしいものでした。」とのあいさつがありました。

「園歌斉唱」では、参加者全員が園庭に出て、東中学校吹奏楽部の演奏で園歌斉唱を2回行いました。素晴らしい演奏で、最後の園歌を歌いました。2回目には、園歌の振付も入れて斉唱を行いました。園庭には、全員の「園歌斉唱」が響き渡りました。懐かしく、最初は思い出しながらも最後には完璧に園歌を踊っている先生の姿もみられました。

そして式典の最後には、「閉会のことば」として、6名の園児が宮沢賢治の詩『雨ニモマケズ・・・』の冒頭部分を暗唱しました。

「あめにもまけず かぜにもまけず
ゆきにも なつのおつさにも まけぬ
じょうぶなからだをもち
よくはなく けっしていからず
いつもすかに わらている」

みなさんお元気で！ 本日はありがとうございました。

式終了後には、参加者全員で遊具前で記念撮影を行いました。素晴らしい式典となりました。昭和29年の創立以来、三日市幼稚園の卒園生の皆様、保護者の皆様、先生方、そして温かく見守り続けていただきました地域の皆様、全ての関係者の皆様、本当にありがとうございました。そして、これからも、子どもたちの未来が一層健やかなものでありますよう心から祈念申し上げます。ありがとうございました。

～ たくさん、たくさん ありがとう 三日市幼稚園 ～

「ありがとう三日市幼稚園」会場の看板等



司会者の坪本先生（元教頭先生）



式典会場



国歌斉唱・市民歌斉唱



園長の式辞



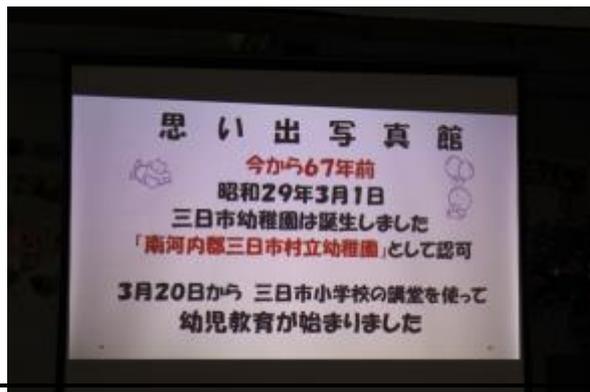
島田市長のあいさつ



保護者代表（令和2年度PTA会長 永田裕美 様）より



思い出写真館・・・創立以来令和2年度まで、67年間のスライド（約300枚）





令和2年度卒園児より（創作劇から三日市幼稚園へメッセージ）



お礼のことば（実行委員長：角田先生）より



最後に園庭に移動して、東中学校吹奏楽部の皆さんの演奏で園歌斉唱
1回目は園歌斉唱 2回目は振付も入れて園歌斉唱です



「閉会のことば」として、6名の園児が宮沢賢治の『雨ニモマケズ・・・』の冒頭部分を暗唱しました。その後、「みなさんお元気で！本日はありがとうございました。」のあいさつで記念式典が終了となりました。

式典終了後、全員で記念写真（モックルも参加してくれました！）
～ありがとう三日市幼稚園～

